



## 滋賀銀行が推進するインパクト融資



SHIGA BANK

2023年4月24日

総合企画部

サステナブル戦略室

宇佐見 剛

インパクトやサステナビリティをテーマとして話をする際に**最も重要なのは言葉の定義**と考えます。

## 本ペーパーにおける定義

- ESG : 環境・社会・ガバナンス
- ESGファイナンス : 調達資金の用途及び調達後の行動がESGを推進するよう 方向付けるファイナンス
- サステナビリティ : 持続可能性
- サステナブルファイナンス : 借り手と社会・環境の持続可能性を向上させるファイナンス
- インパクト : 事業や取組が環境・社会に対して与える効果

## ESG

SDGs2030達成

責任ある投資および開示

温室効果ガス2050年ゼロエ  
ミッション

金融機関の  
責任へ要請

## 金融機能

金融仲介機能の発揮

事業性評価に基づく  
融資等

ビジネスモデルの持  
続可能性と経営管理

ESGファイナンスの適切性維持

地域社会の  
持続可能性を主導

サステナビリティ  
方針

SDGs宣言

環境・社会に配慮  
した投融資方針

サステナブルファイナンス

PRB署名、  
TCFD賛同 等

コンサルティング  
機能の強化

提供する付加価値  
の向上

専門人材の育成

営業体制の再構築

地域商社

## 地域金融機関の行動

# 滋賀銀行のサステナビリティ戦略

## 地域

- 滋賀県の歴史的背景  
…近江商人の三方よしの精神、琵琶湖における環境保全

## 方針

- 行是からサステナビリティビジョン（長期ビジョン）、  
第7次中期経営計画、「Sustainability Design Company」に至る  
**一貫したサステナビリティに関する方針**

## 実績

- ESGファイナンスのラインナップと実行件数



滋賀銀行は、1966年に行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を発表。2001年には「UNEP（国連環境計画）金融機関声明」に日本の市中銀行で初の署名を実施。環境経営をキーワードに環境を中心としつつも、地域社会全体の発展のための取組を継続してきた。

# 滋賀銀行が考えるインパクト融資

- 地域金融機関のインパクト投融資  
銀行であるがゆえに、融資と投資の二つに大別される。

## 融資

インパクト創出にかかるファイナンスを組成し融資する。

## 投資

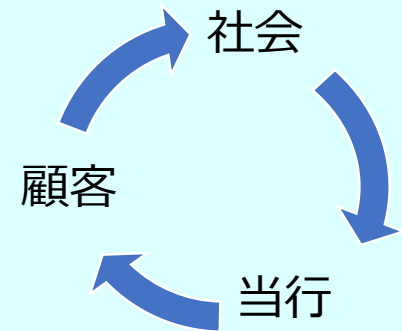
組成済みのインパクトファイナンス商品への投資または、借手または資金使途に対する評価に基づき投資する。

当行は地域の抱える課題を解決する「Sustainability Design Company」の実現を目指しており、融資にかかる取組を中心に行っている。

- 滋賀銀行のインパクト融資の考え方

インパクト創出を考慮した融資は、狭義ではポジティブ・インパクト・ファイナンスと考える。  
一方、広くは地域金融そのものが、インパクト・ファイナンス足りうると考える。

社会の持続可能性に資する顧客の取組は、顧客が事業を通じて社会へポジティブインパクトを創出することに他ならない。当行が目指す姿そのものがインパクト創出につながる。

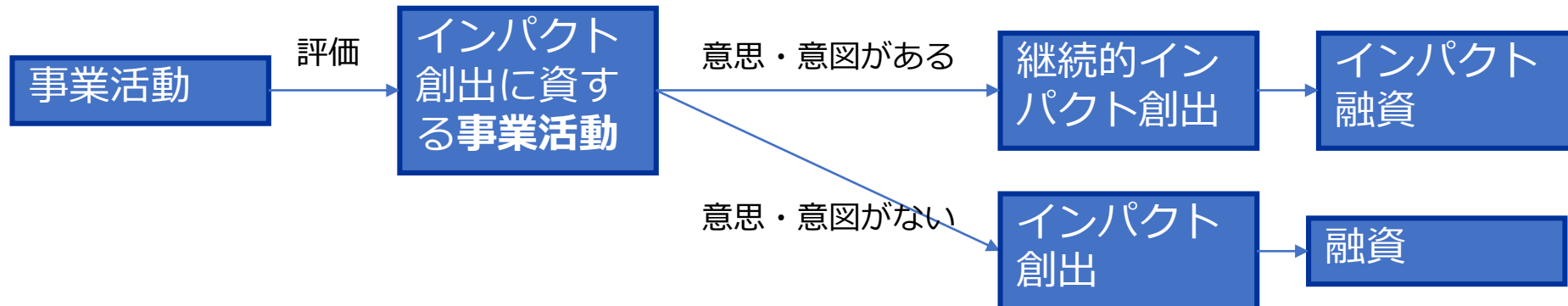


持続可能性向上のサイクル

# インパクト融資に対する考え方

## ■ インパクト融資において重視する点

社会的課題に対して、ポジティブインパクトを創出し、ネガティブインパクトを抑制・削減に資する融資を組成するためには、「継続性(収益性)」「意思・意図」「評価」の三点がカギと考える。



### 『評価』

トータルポジティブな方向へ導くことが目的。定性評価が中心となる。定量評価は、定量化した定性評価となることが多い。重視するのはインパクト量の定量化ではなく、進捗を計測するKPIの設定である。

### 『意思・意図』

インパクト創出が結果的に生ずるのではなく、明確な意思・意図のもとたらされていることを確保するため重要。意思なきインパクトは、創出ではなく、発生である。

### 『継続性 (収益性)』

継続的なインパクト創出により社会的課題解決が達成されると同時に、事業としての継続性が必要。利益なき事業では継続しない。

これらを実現するために最も重要な活動が**エンゲージメント**である。

## 滋賀銀行の関連サービス

格付けCS

ESG評価

SDGsコンサル

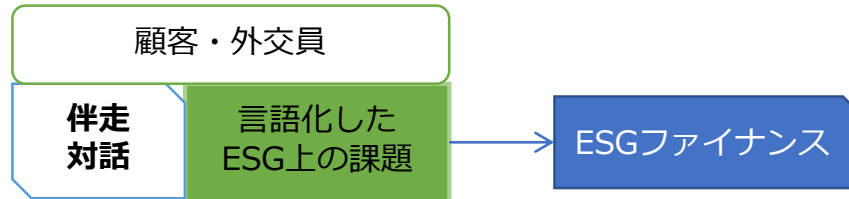
SLL  
サステナブル評価融資

PIF

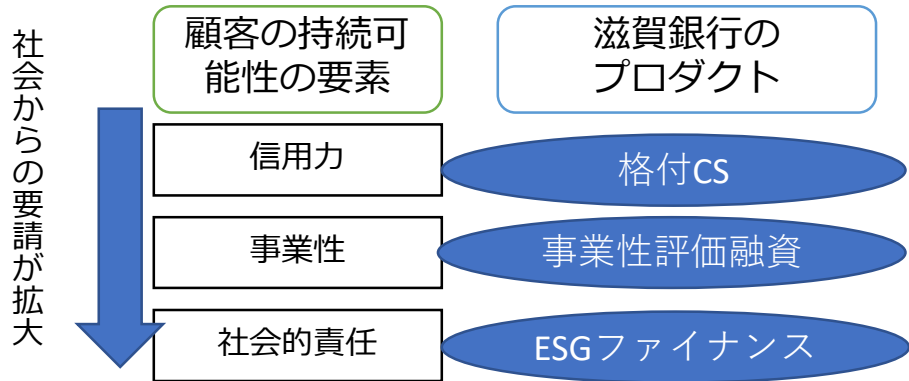
エンゲージメントのグラデーション  
インパクト創出に対する当行の関与の程度

## ESGファイナンスの実践で得た気付き

ファイナンス実行でなく、ESGにかかる経営上の課題の言語化やそのプロセスに顧客が満足  
⇒ **提供価値 = 貸出 + コンサルティング**



- ✓ 顧客の持続可能性向上が目的
- ✓ 「ESG」にかかる潜在的課題を特定・言語化
- ✓ その上で「ESGファイナンス」を組成



課題が信用力、事業性、社会的課題と異なるのみ。  
**伴走・対話による過程は、融資の本質。**

「持続可能性の向上」は「ESG」を通じた対話だけでなく、融資における共通の目的である。

⇒ **融資業務 = サステナビリティファイナンスへ**

従来の金融仲介から、「**コンサル（課題解決） + 融資**」をベースにした価値提供へシフト。

サステナビリティを軸にすることで、より本質的な顧客の課題にアプローチでき、

高い付加価値の提供が可能。そして、社会にはポジティブインパクトが創出される。



# 具体的事例 ポジティブ・インパクト・ファイナンス

企業名：たねやグループ（菓子製造・販売）  
金額：5億円 期間：5年

## インパクト領域

- ①自然と共生するお菓子づくり（PI増大、NI抑制）
- ②地域とつながる商い（PI増大）
- ③多様な人材の活躍（PI増大）
- ④バリューチェーンにおける環境への配慮（NI抑制）  
（PI=ポジティブインパクト、NI=ネガティブインパクト）

たねやは「自然に学び、自然に訊く」「会社があるのは地域のおかげ」という考えのもと、自然と共生しながら、地域に必要とされ、その地の自然や風土、歴史を未来につないでいくことを企業の役割と見据え、早くから環境保全活動や文化活動にも取り組んできた。

当行は外交活動としてのエンゲージメントを通じ、当社の思い、理念を理解し、その取組に伴走してきた。サステナビリティに対する理解の深い当社に対してポジティブインパクトファイナンスを提供することは、PI、NI双方の評価を実施を通じ、トータルPI創出を加速する取組と位置づけられる。

本件は、環境省のグリーンファイナンスモデル事例として選定されている。

たねやポジティブ・インパクト・ファイナンスの詳細はこちらを参照：<https://www.shigin.com/news/topix/2609>



「自然を学ぶ」をテーマにしたたねやグループの旗艦ショップ店「ラコリーナ 近江八幡」

## （2021年度）グリーンファイナンスモデル事例創出事業



- 株式会社滋賀銀行のポジティブインパクトファイナンスをモデル性を有するインパクト・ファイナンス（インパクト包括型）として選定

### <モデル性>

- ① 地域金融機関が地場企業との継続的な取り引きを通じて経営課題と地域課題を詳細に把握し、企業との対話によって通じてインパクトを特定し目標とKPIを設定している。企業がポジティブな影響を生み出す活動は経済面に多く見られ、環境面では自社のCO2排出量や廃棄物の削減などの取り組みが社会と位置付けられる中で、金融機関と企業が食品業界のサプライチェーンを農業まで遡り環境の保全などの地域に密着した活動を日常的に支えていくところが地域金融機関ならではの強みである。対話してポジティブインパクトの創出に取り組む事例を提示している。地場企業による伝統・文化の継承、環境の保全などの地域に密着した活動を日常的に支えていくところが地域金融機関ならではの強みである。地域課題の解決への貢献が期待される。地元有力企業のインパクトビジネスを支援することは、地域経済の活性化・消費者のサステナビリティに対する意識に好影響を与えることが期待され、他の地域の有力企業に対するインパクトファイナンスの普及にもつながる。
- ② インパクト特定の大きな枠組みには、企業の内部だけでなく外部のステークホルダーや社会全体の価値創造を統合的に説明する「国際統合報告フレームワーク」の考え方を採用し、UNEP FIのインパクトレーダーのデータとの整合性を確認するなどグローバルな環境・社会問題の視点や分析手法を取り入れている。インパクトニーズに関しては滋賀県内のニーズの把握、滋賀銀行の重点課題との照合などローカルな視点も加えてインパクトの意図の明確化に努めている。KPIはインパクトの実現度合いを測るため、企業と距離が近いことを生かしたエンゲージメントを実施することにより指標を改良していくことが期待される。
- ③ 地域金融機関のインパクトファイナンスは、中堅・中小企業による社会の持続可能性へのさらなる貢献を支援できる手法である。これを実施するためには環境・社会問題に対する広範な知見と事業の成長性を見る力の両方が必要で、まだまだ担い手は少ない。このような中でインパクトファイナンスを経営方針に位置付け、人員を投入して国際的な枠組みを地域金融に適用する事例は他の金融機関の取組みの参考になる。

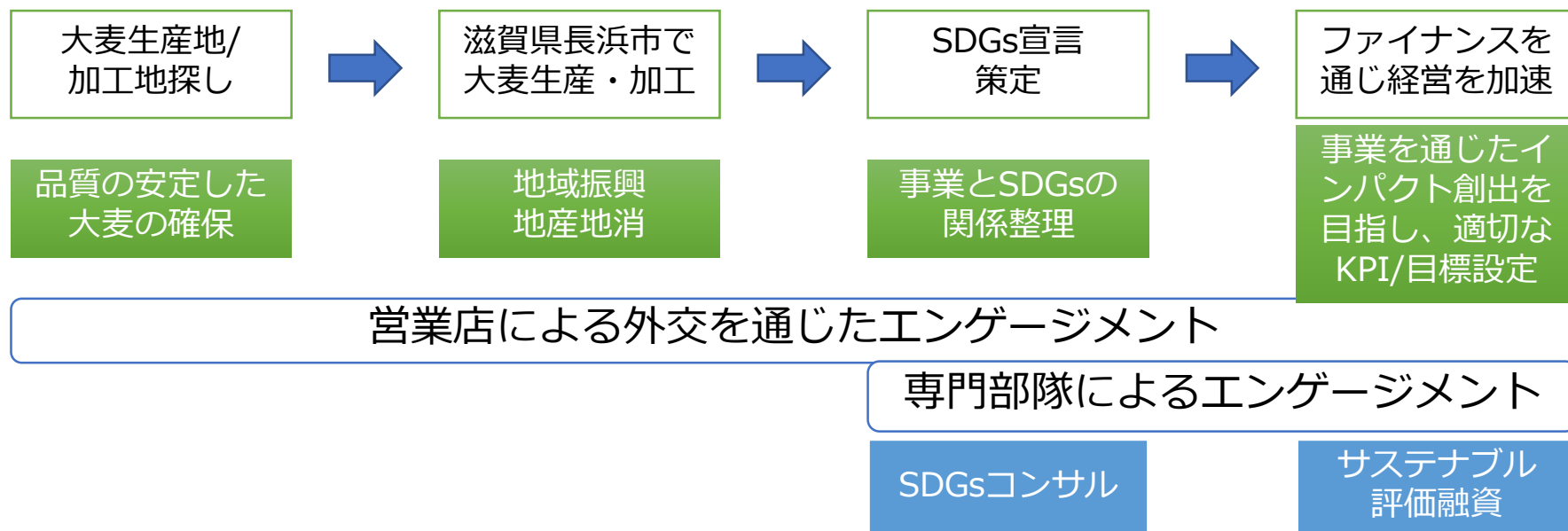
あ

# ■ 具体的事例 SDGsコンサル⇒サステナブル評価融資

企業名：京都グレインシステム（農産物の製造加工及び受託加工）

当社は、玄米茶や麦茶、各種健康茶など飲料用原料のほか、シリアルやパン、お菓子などの素材となる食品原料を製造する食品メーカー。経営理念に「健康と感動を食生活へ」を掲げている。サプライチェーンの中で黒子的な役割を担うが、お客様に喜びと幸せを提供するとともに、その喜びや幸せを社員と分かちあうことを事業の目的としている。

当社と当行の取組の流れは次の通り。



当社の滋賀県長浜市への進出に対する考え『地元と一緒に事業を行い、地域貢献したい』についてエンゲージメントを通じて共有。以降の当社との取組の土台としながら、当社の事業が地域社会の持続可能性へ与えるインパクトをより明確にし、経営へ実装する流れを伴走支援した事例。

京都グレインシステム サステナブル評価融資の詳細はこちらを参照：<https://www.shigagin.com/news/topix/2652>